



長野県教育委員会教育長との懇談会

令和6年1月16日(火) 長野合同庁舎5階503会議室

講演

講師：内堀 繁利教育長

演題：「個人と社会のウェルビーイングの実現」

今年度より始まっている第4次長野県教育振興基本計画について、多様化する現在の社会背景や情勢、県内の子どもを取り巻く状況、課題なども踏まえ、教育現場も大きく変化しなければならないとお話されました。

未来を担う子どもたちだけでなく全ての人々が、今、そして将来にわたって、学ぶことそのものに喜びを感じ、自分らしく生き、自分の学びや人生、そして社会変革の当事者になっていく、そのような学びの場を創ることが、個人と社会のウェルビーイングの実現につながります。すべての学びの場を、子どもも大人も共に学び、探求し、ウェルビーイングを実現できる場にしていきたいということで、長野県教育の目指す姿を詳しく説明いただきました。

実現するための4つの政策の柱

- ① 一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる
- ② 一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
- ③ 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる
- ④ 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え、共感と交流が生まれる機会をつくる

講演後、会員から教員数や高校再編、少人数学級になどについて質問したり、参加した会員からは、「個の探求心を伸ばす教育方針に感動して聞いた」という感想も聞かれ有意義な懇談会でした。教育長と直接お話できるという貴重で伝統ある懇談会ですので、今後も継続し、長野県教育の発展のために議論していけたらと思います。

北佐久郡 今井 正子



研修会

講師：長野県生涯学習推進センター 公民館支援専門委 中田 安子氏

演題：「女性が輝く公民館活動」～社会で子供を育てる環境づくりのためにできる事～

中田氏はH11年より松本市の福祉の公民館といわれている「第3地区福祉ひろば」のコーディネーターとして9年間、その後、松本市で初めての女性館長として第三地区公民館館長を6年間務められました。女性が公民館活動に関わっていく大切さをご自身の経験を通してお話いただきました。

細かいところにも気付ける女性の力が、今、社会教育（公民館）の役割として求められていると4つの提案を挙げていただきました。

○女性活躍の場 松本では35地区あるが、現在、女性の公民館長はいないとのこと。まずは、公民館役員として、いろいろな委員になっていただくことが大事。小中学校の部活・クラブ等への支援や、公民館講座での講師など、子供と一緒にいる講座や公民館を開放して誰でも集える居場所の開設やお手伝いが望まれている。

○広い視野と多様な連携 社会福祉協議会等のいろいろな団体と連携して、大学生、高校生の力も借りながら防災や福祉について工夫しながら学ぶ。

○隣近所の関係を再構築 防災の観点からも顔の見える関係を作っておくことが大切。集い（お祭りやお花見会など）があれば人はつながれる、楽しみが生まれれば人は集まる。

○子供の声、居場所づくり “家でも学校でもない第三の居場所が欲しい” という子供の声に答えて、子供たちの居場所を作ってくれませんか。夏休み等の学習教室、みんなでお昼を作ったり、ウォーキングなどで地域を知ることが学びになる。

大人が楽しむ姿は子供にも通じ、将来住み慣れた故郷に帰ってくるかは、大人の地域を楽しむ背中にかかっていると話され、研修会の最後に今日学んだことを人に伝えていって欲しいと結ばれました。

中條会長からは中田様には、ますますご活躍いただき長野県の女性が活躍できる環境を作りにご尽力下さるようお願いし研修会を終了した。



要望書提出

懇談会の前に内堀教育長に婦人会より「長野県立養護学校の高等部に他学校から入学を希望する生徒のために定員の増と増設を要望します」という要望書を提出いたしました。



「くらしのフォーラム地域版」



今年度もウイミンセミナーで学んだ「共生社会」について、各地域でフォーラム開催していただき研鑽をより深めていただきました。

岡谷市連合婦人会 令和5年9月7日(木) 岡谷市生涯学習センター

テーマ：「共存共栄の多文化共生社会を目指して」共生のまちづくり

講師：マキナリー 浩子氏

ウイミンセミナーに引き続き、地元出身のマキナリー浩子さんに来ていただき、県で勉強させて頂いた時より非常に分かりやすくお話いただき、参加者の方にも好評でした。



ジェンダーの方との接し方もこやかに説明してくださり、そういう話し方や持って行き方なら誰でも出来ると皆さん思ったようです。

人手不足の時代、外国籍の方の手を借りなければ日本の経済は廻りません。きちんと受け入れるということは、日本の国や地域が責任を持ち共生社会の実現地域で幅広いネットワークづくりが不可欠。まちづくりに詳しいコンサルタントが初期メンバーになって、地域に眠っている力を引き出し、私たちも協力することが効果的なまちづくりだと思います。

千曲市連合婦人会 令和5年11月1日(水) 信州の幸・あんずホール

テーマ：生きることを学ぶお互い様の地域づくり～みなさんの思いを出し合いましょう～

講師：認知症キャラバン・メイト 服部 幸恵氏

地域包括支援センター 久保係長

認知症の正しい理解と共生社会の実現はシニア世代の関心事であり、多くの方に参加していただいた。服部講師には「認知症サポーター養成講座テキスト」に沿いながら、具体的な経験談も豊富にこめられ理解しやすかった。現在介護しているご家族が疲弊してしまわないように、また認知症のご本人も生き生きと生活していけるようなこのような勉強の機会は大切だと思いました。包括支援センターの久保係長の「認知症サポーター養成講座」についても地域の方々が「認知症サポーター」として、互いに活動することの大切さがわかるお話でした。認知症の御本人・家族・地域の方々が連携し、「認知症の正しい理解と共生社会への実現へ」が当たり前の社会になることを期待するばかりです。



上田市連合婦人会 令和5年11月9日(木) 社会福祉法人まるこ福祉会

テーマ：一緒に学ぼう・みんなでつくろう「地域共生社会づくり」

講話：社会福祉法人まるこ福祉会理事長 柳澤 正敏氏

体験発表：信州大学4年生 成沢 乃彩氏

講師：上田市人権啓発推進委員 柳沢 富美子氏

柳澤理事長は、「植福」人の心の畑の中に幸せの種を蒔いてあげること、幸せの花を咲かせてあげることが、「共生社会」の実現に向け、福祉法人の使命だと語られました。

信大生の成沢さんは、中学入学時に病気で不登校になってしまったが、中3の3学期より、支えてくれた先生のおかげで高校に進学でき、現在は信州大学に進み教師を目指している。自身の体験を生かし、不登校の子供たちの支えになりたいとフリースクールでボランティア活動中をしている。

柳沢委員は、「社会の一員として、自分に自信を持ち、自分で責任ある行動がとれ、共同体の中で一定の役割を担うことができる。①愛・家族 ②仲間・友達 ③仕事」を感じられている時、人は精神的に健康であると考えたと話され、講話の後「みんなが仲良くなるワークショップ」を行いました。

「共生社会」を考えると、まず自分を大切に考えることが、周りの人も大切にできる。3名のお話を伺い「私たちにできること」を確信しました。



下伊那郡連合婦人会 令和5年10月10日(火) 喬木村福祉センター

テーマ：障がい者との共生社会の実現

講師：社会福祉法人アンサンブル会 松川総合施設長 小椋 雅子氏
社会福祉法人夢のつばさ 本 部 長 安藤 睦子氏



障害のある人もない人も地域において共生できる社会を目指すには、私たちはどうすればいいか考え、今後の活動に活かしていきたいと思い企画しました。

両施設は、働いて収入を得て社会的自立を仲間と一緒に目指すことを目標に運営されているとのこと。そこで何か出来ることがあるのではと考えた私達ですが、施設からは「地域の中で好意的無関心でいてほしい、さりげなく支えてくれればと。施設で作っている野菜やパンなどを買ってくれば充分だとのこと。知る機会がなかった障がい者や施設の実情が分っただけでも大きな収穫でした。積極的に施設で販売しているものを買うだけでも、協力することになるので、これからは意識的に購入しようということになりました。

須坂市連合婦人会 令和5年11月30日(木) 長野養護学校高等部すざか分教室

テーマ：共生社会の中での特別支援学校での実践の様子を学ぶ

講師：長野養護学校高等部すざか分教室 主任 町田 武信先生

すざか分教室が目指している卒業後の社会人としての長い人生を「豊かに生きる力」や「社会生活や職業生活を営むための基礎となる力」を育て、地域社会で主体的に生きる生徒を育成するために行っている活動、地域とのかかわりの実践の様子を映像を交えてお聞きしました。その後、実際の活動を見学させて頂いた。創成高校普通科の生徒と当たり前に交流しあっている姿がすごいと感じた。そして地域からお仕事をいただくという姿勢で、確かな技術を身につけ地域（お客様）のため責任をもって働く中で、人の役に立っている満足感・達成感を感じている子供たち。人から助けられるのではなく、自分の人生を人とのかかわりの中で今を存分に楽しんでいるなど実感しました。



2023年度 信州婦人健康のつどい

日時：令和5年10月23日(月) 午後1時～午後3時30分

会場：ANCアリーナ（安曇野市総合体育館）

講演：疲労の正体～こころとからだの整え方～

講師：公益財団法人長野県健康づくり事業団 保健師 竹村 太一氏



4年ぶりにANCアリーナという新しい会場で開催され、婦人会からも約100人の会員さん参加され講演をお聞きした後に体操をしました。

講演は「疲労の正体」ということで、丁寧でまとまりの良いプリントを頂きながらお話をお聞きしたので、「なるほど！」と気が付かなかったということが沢山あり、「疲労と睡眠が深く関係があること」が、とても勉強になりました。

- ・体からの警告アラームである「疲労」を無視しない。
- ・ストレスと上手に付き合い対処することで、疲労をためにくい心と体をつくる。
- ・睡眠を中心に一日の生活リズムをつくり、その日にたまった疲労は、その日の睡眠で解消する。

まずは生活習慣を整えることが良い睡眠につながるので、毎日しっかり朝食を食べ、栄養バランスを考え、運動も定期的に行い、平均7～8時間の睡眠を心掛ける努力をしていきたいと思いました。幸い下諏訪には良い温泉もあり、身体を流しあいながらのおしゃべりは、ストレス解消の一役を担ってくれています。



諏訪郡 武居 洋子

全
女
会
補
助
事
業

昆布・凍り豆腐料理講習会

上
田
市



上
水
内
郡



防災学習会

下
伊
那
郡



全国女性団体連絡協議会関東ブロック会議(東京都)

期日：令和5年9月14日(木) 10時 会場：テクノプラザかつしか

全国女性団体連絡協議会関東ブロック会議に参加して

今年は例年になく暑い日が続いており、9月中旬でもとても暑い日でしたが、佐久市連合婦人会より7名参加させていただきました。女性会員の皆様のパワーは素晴らしいと実感しました。

主催者挨拶、櫻井よう子会長挨拶の代読、東京都会長挨拶と始まり、来賓として小池百合子東京都知事のリモートでの祝辞、葛飾区長青木様の祝辞、また、来賓の相撲甚句会の皆様による、相撲甚句を披露して頂きました。

記念講演は「どう変わる？日本の未来！私たちの暮らし！」のテーマで、白鳳大学名誉教授の福岡政行氏による講演をお聞きしました。とてもパワーのある話し方で、日本の現状、世界の中の日本、私たちの現状とこれからの暮らし方についてなど、聞きやすい話し方で引き込まれました。日本の経済の現状は借金大国であること、政治も経済も人材不足であることなど、とても大きな問題です。人材育成が急務であることを想うと、今の幼児から大学までそれぞれの教育の現状の見直し、また改革の必要があるように思われます。超少子化超高齢化である日本、現在の高齢者は100歳まで現役に近い形で活躍できるよう自己管理が必要である。そのように出来たらいいですね。地球規模で、温暖化の影響での異常気象による自然災害が、世界で今後も増える可能性がある。など、とても大きなテーマ、課題であると思いますが、考えさせられる講演でした。自分の周りで、何が出来るか考える機会を与えられました。



佐久市 大井 文子

第71回全国女性団体研究大会 神奈川大会

期日：令和5年11月21日(火)
～22日(水)

会場：パシフィコ横浜・
神奈川県民ホール
県連婦より参加者4名



令和5年度長野県将来世代応援 県民会議会長表彰

令和5年12月6日
佐久市コスモホールにて
中條会長が受賞



北方領土返還要求署名活動に ご協力ありがとうございました

県連婦として1,045名の署名を北方領土返還要求長野県民会議へ
お届けしました。

令和5年度 一般社団法人長野県連婦役員・郡市会長

下伊那郡	諏訪市	岡谷市	北佐久郡	佐久市	上田市	千曲市	上水内郡	須坂市	郡市会長	監事	副会長	会長	県連婦役員
寺田眞由美	武居洋子	瀧澤幸子	今井正子	奥村繁子	池田佐代子	鎌田恵子	北條美枝子	竹前美枝子	小宮一子	宮坂ケイ子	奥村繁子	平松和智子	中條智子



令和6年1月16日郡市会長会にて

<お詫び>第25号で掲載いたしました名簿のお名前に誤りがありました。改めて訂正しお詫び申し上げます。